

## 自然の力

山に行った  
急な斜面を上がる  
小川がきれいだ  
ほんとに水がすんでいて  
心の中がすっきりする

「あつ カニがある」  
という言葉につられて下を見ると  
暗い岩のかけにカニがこちを向いていた

## 中学生の部



吉森沙希さん  
高知県高知  
学芸中 2年

カニの目線まで腰をおとす  
カニがびっくりして上に上がるようにした  
最初は岩ですべっていたけど  
二回目はちゃんと上の方まで行けた  
岩のかすかなでこぼこや 落葉ですべりにく  
くなったところを通過して

しばらく観察してみた  
暗い岩のかけの涼しい所にまた隠れた  
「カニも頭いいねえ」  
自然の中ではよく頭をつかう  
「それやったら私もさっさとここにのこった  
ら頭良くなるがやない？」  
と喋ってしばらく山の中で遊んだ  
きつと脳に一本線が入ったことだろう  
自然の力ってすごいなあ

## 高校生の部



柳岡沙織さん  
市立前橋  
1年

「お誕生日おめでとう」  
言われてうれしいこの言葉  
胸いっぱい広がる喜び  
私の誕生日  
誕生日をむかえるたび思う  
59年前、あの日私が生きていたら  
あの時私がこの日をむかえていたら  
どんな気持ちだったろう  
見上げても見ることができない青空  
空襲から逃げる毎日は  
もう終わった、戦争が終った  
次の日私はどんな気持ちでいるだろう  
その日私はどんな場所とどんな様子で  
自分の誕生日をむかえていただろう  
「おめでとう」なんて誰も言ってくれない

知っている人だっていないだろう  
自分さえも覚えていないかもしれない  
誰にも祝ってもらえずに……  
見上げれば大きく広がっている青空  
逃げることも、恐がることも、もうない  
昨日戦争が終った  
59年前の私の誕生日  
きつときつとこの日は  
平和へのスタートだっただろう  
二度と来てほしくない昨日までの日々  
何をしていたか  
どこへ行けばいいのか  
きつとわからないだろう  
でも、私の誕生日は  
59年前のこの日は  
きつときつと日本の平和への  
小さな小さな一歩を踏み出した  
誰にとっても喜びの日、幸せの日で  
あってほしい  
誰もが平和にむかえてほしいこの日  
59年前の私の誕生日から始まった  
日本の平和が  
これから先、永遠と続くことを  
私は願う

## 自分の言葉で書くことを

### 秋谷選考委員長による講評の概要

選考委員会終了後、入賞作品  
決定の記者会見が行われ、秋谷  
豊選考委員長が発表した講評の  
概要は次のとおりでした。

二十一世紀は科学の時代、宇  
宙の時代と言われますが、本当  
は人間の時代だと思えます。

応募された詩を読みながら気  
付いたことは、小学生、中学生  
高校生の皆さんがそれぞれの年  
代の中で、きちんと人間を見て  
いるということ。これは応募さ  
れたすべてにいえることです。

若い皆さんが自分の身に問い  
掛け、それについて答えを出し  
てみたり、そして、そうしたこ  
とに喜んだり悲しんだり。いろ  
いろ体験していることが、今回  
の作品に反映されていました。  
それぞれの目から見た「人生の  
風景」が言葉に表現されている  
わけです。

今生きている時代のことです。

## 11月6日贈呈式と朗読会

### あなたも若い詩人の言葉を聞きませんか

美悼賞から入選まで、入賞者  
が一堂に集まる贈呈式と、入賞  
者や選考委員、推薦委員らの朗  
読会を開きます。

若い芽の水エム贈呈式  
日時 11月6日 午後1時〜1



1つ1つの作品を丁寧に審査

詩の題材にならないものはあり  
ません。小さい皆さんは何でも  
ないようなこと、現実のことを  
詩にしながら、実はもう一つ、  
この世界をちゃんと見ている。  
それには感覚が必要で表現力も  
大事ですが、やはり、自分の言  
葉で書くことが一番。作品の質  
は三部門とも目覚ましく向上し  
ています。

皆さんの詩から新鮮な力を感じ  
ながら、わたしたちも必死に  
なって勉強していくつもりで、  
今回の選考を行いました。

朗読会  
日時 11月6日 午後1時40分  
3時30分 会場 前橋文学館

内容 入賞者と選考委員や推薦  
委員などによる詩の朗読